

事例報告 2

追手門学院大学

学びと成長の可視化

追手門学院大学 アサーティブ研究センター
研究員 志村知美
Tomomi.Shimura.py@otemon.ac.jp

自分史上、
想像以上!

学びと成長の可視化の目的

～ はじまり ～

大学生になるレディネスを確認するためには、学力と人間力(後にアサーティブネス)をそれぞれに評価する必要性を感じた。 → アサーティブプログラムとアサーティブ入試の誕生。

<可視化の目的>

- ① アサーティブプログラム・アサーティブ入試で想定した入学者像^{※1}の可視化
- ② アサーティブ入試入学者の学びと成長の可視化

アサーティブプログラム

- ①自分とお話下さい(自己省察力)
- ②他の進路や可能性を模索下さい(探索力)
- ③大学合格がゴールではなく、人生の歩み方を考え下さい(計画力)



Self-direction
&
Challenge
【納得した受験】

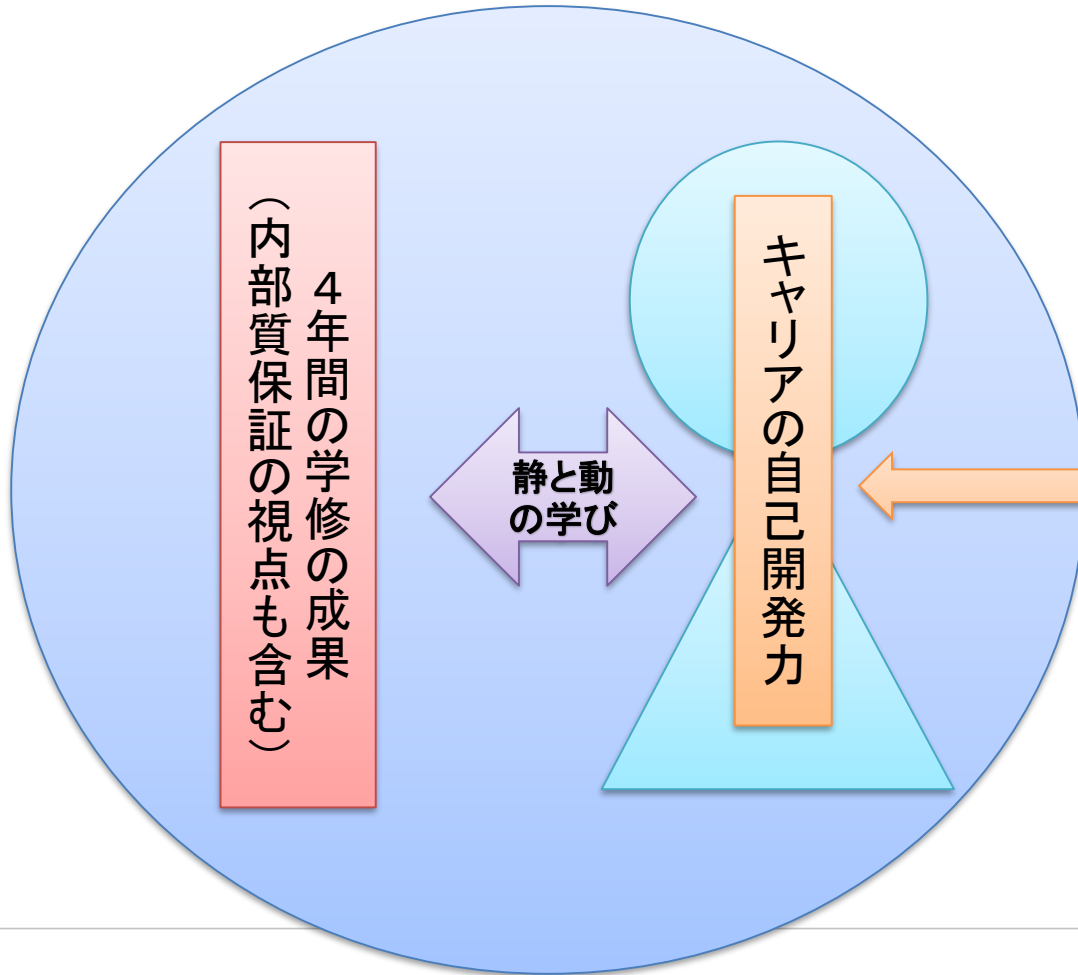


【アサーティブ入試入学者像】

- ・ シラバスの活用ができる学生
- ・ 講義への参加意欲の向上
- ・ 各種活動への積極的参加

学びと成長の可視化に関する探索的仮説

キャリア開発理論の視点から捉える



学修成果(静的プロセス)と自己開発力(動的プロセス)の両方の学びを捉えるのがアサーティブプログラムの役割
→アサーティブラナーへの育成

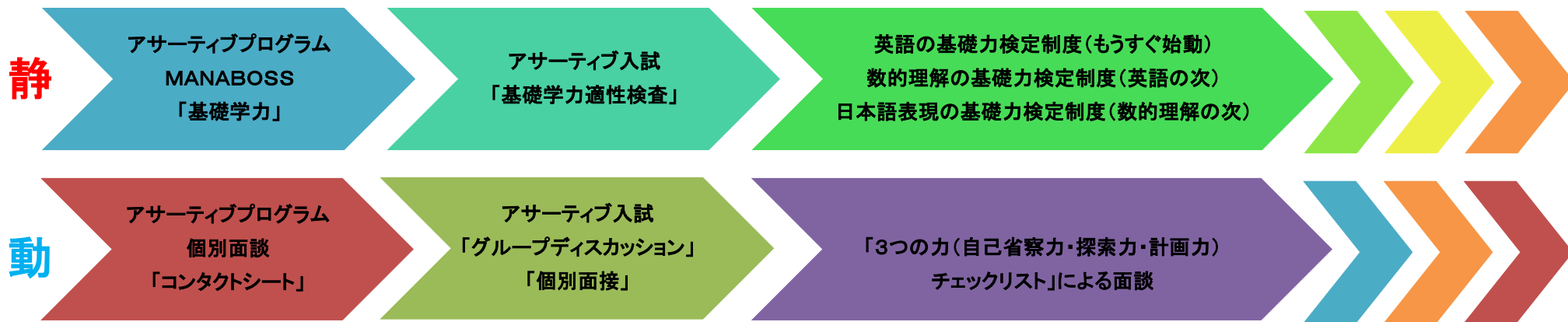
※学びと成長の行動の原動力に、「学びのモチベーション」を位置付ける。
ここで示す「成長」とは、grow(成長する)ではなく、career development (キャリアの自己開発)であり、可視化指標は自己省察力・探索力・計画力である。
チェックリストで、お互いに確認ができる。

今回の共同研究から見たこと

学内には、入学後の評価がGPAや修得単位などの静的な指標しかない。

アサーティブ入試の評価軸とのズレを実感。

→ 2軸の評価と成長支援の方法論のため次年度も継続して外部アセスメントを活用(対象者を拡大)



学力(静的)と成長(動的)の情報を集約し、1人ひとりにあった適切な成長支援のために、

学生カルテ(大学側)が必要であり、自己の実績証明と振り返りのポートフォリオ(学生側)として活用できるようなシステムを構想中。